



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社エンバイオ・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6092 URL <https://enbio-holdings.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西村 実
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 長谷川 忠玄 TEL 03 (5297) 7155
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	5,636	31.0	1,378	96.1	1,529	126.9	972	159.0
2022年3月期第2四半期	4,301	18.8	702	71.2	674	76.1	375	42.3

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 1,034百万円 (193.5%) 2022年3月期第2四半期 352百万円 (13.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	146.42	-
2022年3月期第2四半期	56.62	56.58

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	17,196	6,955	40.0	1,034.42
2022年3月期	16,370	5,973	36.0	886.12

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 6,871百万円 2022年3月期 5,888百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	0.00	-	8.00	8.00
2023年3月期	-	0.00	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	8.00	8.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,418	△6.3	1,317	7.2	1,287	7.5	716	9.6	107.91

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	6,675,200株	2022年3月期	6,675,200株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	32,344株	2022年3月期	30,344株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	6,675,200株	2022年3月期2Q	6,632,248株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に掲載されている業績予想の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、業績の予想等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フロー状況の分析	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国の経済状況は、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が進み、経済活動についても徐々に緩和されつつあるものの、新たな変異株の発生など感染拡大のリスクは解消されず、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの業績に大きな影響を及ぼす不動産業においては、働き方改革や在宅勤務等の新しい暮らし方が住宅需要を押し上げ、金融緩和政策の継続等による下支えの効果も加わり、国内外投資家の投資意欲は引き続き旺盛であり、不動産マーケットは堅調な推移を見せております。

また、建設業におきましては、民間建設投資において、アフターコロナを見据えた設備投資意欲の向上及び国土強靱化計画等を背景とする関連予算の執行により、公共建設投資は一定の底堅さではありますが、受注競争の激化や建設資材の価格高騰等の影響もあり、厳しい事業環境が続いており、先行きについては引続き注視が必要な状況となっております。

このような背景のもと、土壌汚染対策事業を中心にグループの総合力を活かして、ブラウンフィールド活用事業や自然エネルギー事業を積極的に展開いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,636,865千円（前年同四半期比31.0%増）となりました。経常利益は1,529,111千円（同126.9%増）となりました。活況な不動産市場の旺盛な需要に支えられ、ブラウンフィールド活用事業における物件の販売が順調に推移し、売上高及び利益ともに期初計画を大きく上回る着地となり、増収増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は972,724千円（同159.0%増）となりました。

以下に各セグメントの状況を報告いたします。

①土壌汚染対策事業

土壌汚染対策工事の引き合いは不動産市場が活況なため堅調ですが、土地の価格高騰に加えてインフレによる建築資材の価格高騰による影響で計画の中断や消滅する案件も散見されてきました。土壌汚染の管理を目的とする経済的な対策（リスク管理型手法）や土壌調査と対策工事をセットにして対策費用を保証して実施する責任施工など差別化された提案に注力しておりますが、受注環境は予断を許さない状況です。

潜在ニーズを掘り起こすべく、リスク管理型手法の有力工法として米社から新たな原位置透過壁工法を導入し第一号案件の受注に成功しました。また、新規の有害物質であるPFOS/PFOA対応サービスを展開し、初受注に向けて具体的な引き合いに対応中であります。さらに、企業のM&Aの活発化に伴い増加している環境DD（デューデリジェンス）の専門部署を開設し複数案件の受注に成功しました。土壌汚染対策工事で培った水処理設備を中心とした環境設備の設計・製作・設置事業の営業を新たに開始いたしました。当第2四半期連結累計期間においては、前年受注した大型案件や対策費用を保証する責任施工案件の原価率改善が進んだことから増収増益となりました。

中国では日系企業の工場移転、事業撤退に伴う土壌汚染対策に注力しておりますが、当第2四半期連結累計期間では上海市の都市封鎖や江蘇省内の移動制限により新規営業活動が停滞し、既受注案件の生産活動に注力し原価率の改善に努めました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,605,535千円（同45.2%増）となり、セグメント利益は346,474千円（同39.5%増）となりました。

②ブラウンフィールド活用事業

株式会社エンバイオ・リアルエステートでは、大手だけでなく中小の仲介業者に相対で進められる案件の情報収集や入札案件にも積極的に参加し、6物件を仕入れました。購入した物件の中には、当社として初の店舗開発を行う案件もあります。販売においては、6物件の販売を行いました。販売した物件の中には、形質変更時要届出区域の指定を受けた後に売却した物件もあります。

大規模な土壌汚染地を扱う株式会社土地再生投資では、厚木市内案件の解体工事を行っております。また、土壌汚染コンサルティング業務や土壌調査等の受注斡旋業務を5件受託いたしました。徐々に重篤な汚染地の売却相談が増加しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,195,551千円（同27.3%増）となり、セグメント利益は780,154千円（同271.9%増）となりました。

③自然エネルギー事業

当第2四半期連結会計期間末日における国内外の再生可能エネルギー発電所は開発中含め41か所、総発電量46MW（うち稼働中は約42MW）となり、所有・管理している各発電所からは、ほぼ計画通りの安定した売電収入が得られました。クリーンエネルギー需要の拡大に伴い、海外を含む新規案件の情報収集、セカンダリー発電所やコーポレートPPA案件、再生可能エネルギーを用いた新たなビジネススキームの検討に注力しております。

[国内]

北海道において新たな太陽光発電所（約2,235kW）が、2022年7月21日に稼働いたしました。

株式会社エンバイオC・エナジーでは、株式会社シーアールイーが開発する物流施設「ロジスクエア」の屋根を活用したグリーン電力供給の準備を開始いたしました。

MaF合同会社の出資持分を取得し、PPA（電力購入契約）事業の準備を開始いたしました。本年度内に5か所の設置を計画し、以降年間5～10件程度の新規契約獲得を目指しております。

[海外]

ヨルダンにおける第5号案件（2023年1月完成予定）は予定通り、ドバイにて開発中の第1号案件（2023年1月完成予定）も概ね予定通りに進捗しております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は835,779千円（同6.8%増）となり、セグメント利益は304,067千円（同14.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産につきましては、総資産は17,196,341千円となり、前連結会計年度末に比べ826,058千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が1,038,625千円、棚卸資産が956,902千円増加したものの、有形固定資産が1,151,479千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、10,240,892千円と前連結会計年度末に比べ155,395千円減少いたしました。これは主に長期借入金が63,937千円、未払法人税等が136,917千円、短期借入金が68,000千円増加したものの、1年内返済予定の長期借入金が283,978千円、買掛金が66,094千円、社債が18,500千円、デリバティブ債務が49,542千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、6,955,449千円と前連結会計年度末に比べ981,454千円増加いたしました。これは主に利益剰余金が919,625千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フロー状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の期末残高は、前連結会計年度末に比べ1,038,625千円増加し、3,380,241千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、獲得した資金は2,128,386千円（前年同四半期比13.1%増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,451,000千円、棚卸資産の減少額723,193千円、売上債権の減少額212,316千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、使用した資金は788,451千円（前年同四半期比111.3%増）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出725,594千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、使用した資金は224,788千円（前年同四半期比45.3%減）となりました。これは主に、長期借入による収入628,675千円、長期借入金の返済による支出848,716千円、短期借入金の純増加額68,000千円、配当金の支払額52,733千円によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月12日公表の「2023年3月期 第1四半期決算短信」の「2023年3月期の連結業績予想」を修正いたしました。詳細は2022年11月14日公表の「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,371,635	3,410,261
受取手形、売掛金及び契約資産	1,608,637	1,396,320
棚卸資産	1,849,053	2,805,956
その他	644,717	788,143
貸倒引当金	△15,084	△7,976
流動資産合計	6,458,959	8,392,705
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	489,526	442,044
機械装置及び運搬具（純額）	4,202,505	4,510,384
土地	3,019,358	1,626,792
建設仮勘定	191,269	168,998
その他（純額）	11,618	14,577
有形固定資産合計	7,914,277	6,762,798
無形固定資産		
のれん	118,090	114,086
その他	427,562	413,393
無形固定資産合計	545,653	527,479
投資その他の資産	1,451,392	1,513,357
固定資産合計	9,911,323	8,803,635
資産合計	16,370,283	17,196,341
負債の部		
流動負債		
買掛金	620,798	554,704
未払金及び未払費用	73,089	84,573
短期借入金	645,000	713,000
1年内返済予定の長期借入金	1,276,700	992,722
未払法人税等	315,263	452,180
契約負債	345,539	346,184
賞与引当金	50,000	11,057
工事損失引当金	2,704	3,221
その他	116,940	104,430
流動負債合計	3,446,036	3,262,075
固定負債		
社債	36,500	18,000
長期借入金	6,624,412	6,688,350
資産除去債務	115,317	128,565
デリバティブ債務	133,801	84,259
その他	40,219	59,642
固定負債合計	6,950,252	6,978,817
負債合計	10,396,288	10,240,892

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,797,334	1,797,334
資本剰余金	1,876,574	1,876,574
利益剰余金	2,352,607	3,272,232
自己株式	△15,421	△15,421
株主資本合計	6,011,094	6,930,719
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△5,940	△26,028
繰延ヘッジ損益	△99,504	△62,631
為替換算調整勘定	△17,482	29,455
その他の包括利益累計額合計	△122,926	△59,204
非支配株主持分	85,827	83,933
純資産合計	5,973,994	6,955,449
負債純資産合計	16,370,283	17,196,341

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	4,301,517	5,636,865
売上原価	3,009,814	3,555,254
売上総利益	1,291,703	2,081,610
販売費及び一般管理費	588,823	703,298
営業利益	702,880	1,378,311
営業外収益		
受取利息及び配当金	35,949	19,953
為替差益	10,226	173,259
受取家賃	2,503	2,445
受取保険金	582	1,139
貸倒引当金戻入額	6,612	7,107
その他	6,560	12,690
営業外収益合計	62,435	216,596
営業外費用		
支払利息	63,981	62,089
支払手数料	24,929	2,514
その他	2,352	1,192
営業外費用合計	91,263	65,795
経常利益	674,052	1,529,111
特別利益		
新株予約権戻入益	304	-
特別利益合計	304	-
特別損失		
減損損失	91,498	78,111
固定資産除却損	1,532	-
特別損失合計	93,031	78,111
税金等調整前四半期純利益	581,325	1,451,000
法人税、住民税及び事業税	201,835	485,253
法人税等調整額	6,204	△4,813
法人税等合計	208,040	480,439
四半期純利益	373,285	970,560
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,254	△2,163
親会社株主に帰属する四半期純利益	375,540	972,724

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	373,285	970,560
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54,658	△20,087
繰延ヘッジ損益	△3,846	37,142
為替換算調整勘定	37,691	46,937
その他の包括利益合計	△20,812	63,992
四半期包括利益	352,472	1,034,553
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	355,898	1,036,447
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,425	△1,893

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	581,325	1,451,000
減価償却費	165,510	190,467
減損損失	91,498	78,111
のれん償却額	4,004	4,004
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6,612	△7,107
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△1,860	517
受取利息及び受取配当金	△35,949	△19,953
支払利息	63,981	62,089
為替差損益 (△は益)	△9,579	△173,891
固定資産除却損	1,532	-
売上債権の増減額 (△は増加)	225,997	212,316
棚卸資産の増減額 (△は増加)	851,334	723,193
仕入債務の増減額 (△は減少)	191,155	△66,094
契約負債の増減額 (△は減少)	-	645
その他	△183,341	82,668
小計	1,938,996	2,537,967
利息及び配当金の受取額	33,878	5,989
利息の支払額	△73,210	△62,898
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△17,512	△352,670
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,882,152	2,128,386
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△0	△0
有価証券の取得による支出	△865	-
有形固定資産の取得による支出	△303,837	△725,594
有形固定資産の売却による収入	3,500	-
無形固定資産の取得による支出	△510	△1,530
投資有価証券の取得による支出	-	△6,084
関係会社株式の取得による支出	△8,500	-
長期前払費用の取得による支出	△1,238	△19,750
貸付けによる支出	△2,102	△23,841
出資金の払込による支出	△58,736	-
その他	△785	△11,649
投資活動によるキャッシュ・フロー	△373,077	△788,451
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△288,300	68,000
長期借入れによる収入	555,000	628,675
長期借入金の返済による支出	△621,226	△848,716
社債の償還による支出	△17,500	△17,500
支払手数料の支払額	-	△2,514
ストックオプションの行使による収入	4,600	-
自己株式の取得による支出	△43,848	-
配当金の支払額	-	△52,733
財務活動によるキャッシュ・フロー	△411,275	△224,788
現金及び現金同等物に係る換算差額	26,469	△76,521
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,124,269	1,038,625
現金及び現金同等物の期首残高	1,985,292	2,341,616
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,109,561	3,380,241

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(有形固定資産から販売用不動産への振替)

当第2四半期連結累計期間において、賃貸等不動産として使用される有形固定資産のうち1,686,168千円を所有目的の変更により販売用不動産に振替えております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	土壌汚染 対策事業	ブラウンフ ィールド 活用事業	自然エネルギ ー事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,794,299	1,724,494	782,724	4,301,517	-	4,301,517
セグメント間の内部売上高 又は振替高	71,184	5,700	-	76,884	△76,884	-
計	1,865,483	1,730,194	782,724	4,378,401	△76,884	4,301,517
セグメント利益	248,300	209,747	265,492	723,540	△49,488	674,052

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△213,745千円及び報告セグメントに帰属しない親会社に係る損益164,256千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「土壌汚染対策事業」セグメントにおいて、44,100千円及び「ブラウンフィールド活用事業」セグメントにおいて、47,398千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	土壌汚染 対策事業	ブラウンフ ィールド 活用事業	自然エネルギ ー事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,605,535	2,195,551	835,779	5,636,865	-	5,636,865
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,200	7,700	-	10,900	△10,900	-
計	2,608,735	2,203,251	835,779	5,647,765	△10,900	5,636,865
セグメント利益	346,474	780,154	304,067	1,430,696	98,415	1,529,111

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去△230,447千円及び報告セグメントに帰属しない親会社に係る損益328,863千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ブラウンフィールド活用事業」セグメントにおいて、78,111千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。